

食品安全の向上の取組について

August 2015

MAFF

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

JAPAN

1. フードバリューチェーンにおける基本的な課題

世界の食品流通の状況

- ✓ 食料需要の拡大
- ✓ 食料の生産・製造・流通のグローバル化の一層の進展

→ 食品安全が世界共通の課題に

各国内において、

1. 食品の安全性の確保の取組
2. それを内外の取引先等に分かることを示す
が必要。

-
- ・食料産業の成長、輸出の促進につながる。
 - ・フードバリューチェーンにおける食品ロスの削減にもつながる。

2. 官民のそれぞれの役割

<日本における取組>

官の役割

- 法による規制
「食品安全基本法」
「食品衛生法」
「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」
「と畜場法」
- 安全に係る基準等の国際調和
- ガイドライン等の作成

食品事業者の役割

- 食品の生産・製造・流通過程での食品安全への効果的な取組
- 取引先監査や第三者認証による確認

官民協働の取組

- 食品安全のための取組の標準化
- 教育ツールの開発

食品安全を向上させるためには、
それぞれの地域性や文化に適した方法をとる必要がある。

Food Communication
Project (FCP)

3. 食品安全の取組における提案

アジアにおける食料産業の特徴

- ・多くの中小規模の食品事業者で成り立っている
- ・温暖で湿潤な気候に影響を受けている
- ・発酵食品の文化がある



両国の協力で、食品安全の向上を

加えて、
フード・チェーンでの
食品ロスの削減を目指す。

コミュニケーションから始めましょう！

- 食品安全の向上、食品ロス削減のために、何が必要なのか。
- 国内での食品安全規制をどう遵守させるか。
- 民間企業との連携の方法としてどんな方法があるか。
- 民間企業とのコラボレーションによって食品安全の向上を管理する可能性。
- 國際的な基準・認証との関係

4. フード・コミュニケーション・プロジェクト

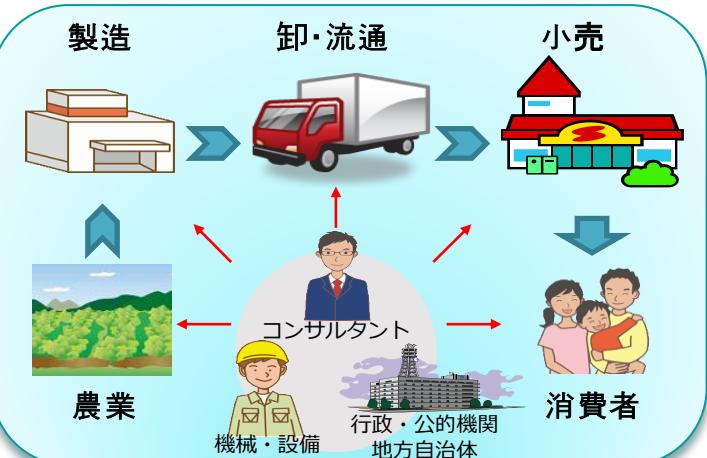
FOOD
COMMUNICATION
PROJECT

フード・コミュニケーション・プロジェクト (Food Communication Project : FCP)

消費者の「食」に対する信頼を高めることを目的として、農林水産省が提供するプラットフォームの下に、食品関連事業者が主体的に食品の安全、消費者の信頼確保のための取組を進めるプロジェクト

FCP情報共有ネットワーク

食品関連事業者：1,736社/団体が参画
(2015.4)



「協働の着眼点」の構成

ベースとなる価値観と行動

1. お客様を起点とする企業姿勢の明確化
2. コンプライアンスの徹底

社内に関する
コミュニケーション

取引先に関する
コミュニケーション

お客様に関する
コミュニケーション

3. 安全かつ適切な食品の提供をするための体制整備
4. 調達における適正な取組
5. 製造における適正な取組
6. 保管・流通における適正な取組
7. 持続性のある関係のための体制整備
8. 取引先との公正な取引
9. 取引先との情報共有、協働
10. お客様とのコミュニケーションのための体制整備
11. お客様からの情報の収集、管理及び対応
12. お客様への情報提供
13. 食育の推進

緊急時に関するコミュニケーション

14. 緊急時を想定した自社体制の整備
15. 緊急時の自社と取引先との協力体制の整備
16. 緊急時のお客様とのコミュニケーション体制の整備



2015年の活動計画

目的：
食品安全の取組を向上させ、食料産業における消費者の信頼を高める

人材育成

工場監査実証研究会

中小事業者へ
模擬工場監査を実施

消費者対応勉強会

標準化

国際標準勉強会

植物工場勉強会

食品事業者による協賛

つながる会議

つながる会議

- ・ 業種横断的コミュニケーションについて
- ・ FCPの基本方針・活動・普及方策について